

富山市センサーネットワーク実証実験成果報告書（本編）

実験タイトル	「とやま」つながりプロジェクト	代表事業者 (連絡先)	関西電力営業本部地域開発グループ 070-2447-5445
		共同参加者	オプテージ、センサーズ・アンド・ワークス

■実証実験報告で記載いただきたい内容

1. 実験の目的

市街地の低密度化、行政コストの上昇、低炭素化社会への対応という地域課題に対し、人流センサーを中心とした情報基盤を整備する補助事業を通じて、リアルタイムに密情報を市民に発信し、3密を避けながら中心市街地の賑わいを実現できることを目的とする。

2. 体制

関西電力、オプテージ、センサーズ・アンド・ワークス

3. スケジュール

- R2.12.4 総務省・データ利活用型スマートシティ推進事業開始
- R3.2.12 おでかけ支援アプリ「シエマル」一般公開開始
- R3.2.24 一連のデータ連携開通確認
- R3.3.5 総務省・データ利活用型スマートシティ推進事業終了

4. 実験方法

対象エリア：富山駅（路面電車、南北自由通路、バスターミナル）、グランドプラザ、富山市立図書館5階「閲覧室」
使用センサ、技術等：赤外線センサー

5. 実験結果

- データの流れ、駅、グランドプラザ他の人流センサのデータ → 現場毎のGWに集約 → LoRaWAN → 市・データ連携基盤 → アプリケーションサーバ → LINE「おでかけ支援サービス」シエマル、の流れが可能である事が確認できた。
- 一部の現場のデータ集約用GWについて、今回、自社で用意し、接続が可能である事が確認出来た。

6. 効果

今回、市のデータ連携基盤への接続、接続したデータを活用し、混雑を予想する事を確認出来た。

7. まとめ

今回、接続の方法が確認出来たので、今後、公共施設のエネルギー管理データにもついても、データ連携基盤へ接続を検討したい。